

「感染しない」「感染させない」を合言葉に コロナに負けないぞ！

有田史談会 月例通信

事務局 中村貞光

090-4740-4752

坂井会長からのメッセージ♪

■ 有田史談会の皆様お元気ですか？充実した日々をお過ごしでしょうか。

私は丸尾地区の老人会の会長を仰せつかり、あわてて古日野原重明先生の「新老人を生きる」を読んでいるところです。新聞では「コロナ変異株、若年層で感染拡大割合、従来の1.5倍超え」と報じられています。開催予定でした有田陶器市も突然中止になりました。私たちは、コロナ防止対策をしながら、一歩前に進もうではありませんか。「新老人の会」会員の生き方のモットーは、「一、愛し愛されること 二、創（はじ）めること 三、耐えること」の三カ条とのこと。また、鎌田實先生（諏訪中央病院名誉院長）は、「人生の1%を人のために」というスローガンを掲げておられます。

朝倉記念病院の林与吉郎先生は、有田における講演（昭和59年10月10日、有田町勤労者福祉会館）の中で次のように話されました。「命づくりは50歳を過ぎて、そろそろ体力気力が衰える頃からが特に大切です。人生の花は50歳代ではなく、80歳を過ぎてから咲かせましょう。我が道一筋、若い頃から慣れ親しんだ仕事を一生続けるのが最高です。有田は文化の香り高い焼き物の里ですから、特にそれが可能ではないでしょうか。（有田は、だみ筆を持ったまま天国に。）そのほかお礼奉公の意味で奉仕活動をなさるのもいいし、土いじりの好きな人は家庭菜園や盆栽に打ち込むのもいいでしょう。そのほか趣味手芸何でもいいです。自分の持てる力を出し尽くして懸命に生きる。そしてある日、真っ赤に熟した柿が夕映えにポツンと落ちるように大往生する。これが最高の人生ではないでしょうか。」「老人を最も生き生きとさせるものは、自分のしていることが若い人の為になっているという意識を持つこと。例えば公園の草むしりなど。」

私たちは沢山の人に支えられて現在があります。アフターコロナの時代を生き抜くために、早速「人生の1%を人のために」出来ることから始めましょう。



事務局からのメッセージ♪

■ 昨年度は新型コロナウイルスの影響で例会が全滅！全員が揃うことなく終わりました。本年度最初の4月は、全員揃っての楽しい食事会と例会が開催出来ず、静かなスタートになりました。今後も数か月は今の状況が続きますが、もうしばらくの辛抱です。

5月7日より、町内では75歳以上の人からワクチン接種が開始されます。65歳以上の高齢者は6月中旬以降に予定されていますが、まずはワクチンの接種を済ませたいものです。接種完了後も油断することなく変異ウイルスに備え感染防止に努めましょう。

古窯跡探訪

■ 古窯跡見学は県内での新型コロナウイルスの感染者が急増、自粛・延期していましたが4月27日に再開、大串・吉永さんの案内で南川原地区の窯ノ辻窯跡・平床窯跡・天神森窯跡・小物成窯跡の4カ所を見学をしました。今回は坂井、井手、馬場、栗山、前田、鶴兄、鶴美が参加しました。

一年がかりで旧有田町を巡りましたが、次回は西有田地区を見学予定です。



■ 7月の「会報」発行に備えて準備は進んでいますか？今回も懲りずに原稿のお願いをすることになりますが、何卒ご容赦願います。投稿の課題は自由です。日記程度の文章でも大歓迎ですので、無理のない範囲で投稿にご協力下さい。

外出自粛を心掛け三密を回避し
コロナの感染から命を守りましょう！